

福祉利用者の生活史の傾聴と地域福祉の推進



DATA

- 主な連携先・メンバー
堺市内などの福祉施設・機関
- 活動地域
関西大学堺キャンパス
- 活動期間
2019年度～継続中
- 活動資金
堺市と関西大学との地域連携事業

活動の目的

- 異なる社会生活を送っている者同士が出会い、福祉利用者の話を傾聴・聴講し、それぞれの福祉実践とリンクさせることで、地域福祉の推進、および新しい地域福祉社会を創発(emerge)させること
- 地域福祉の担い手となる一般市民、福祉専門職従事者、あるいは次世代を担う「将来の」ソーシャルワーカーたちが、傾聴をはじめとしたコミュニケーション技術、相互理解の理念、ミクロ(生活史など)からマクロな社会過程(福祉に関する社会問題・社会制度など)を想像するスキルを習得・学習すること



連携にいたる経緯

本学人間健康学部「福祉と健康コース」の社会福祉士養成課程における相談援助演習や福祉実習指導などで用いている方法論を、市民や専門職等にも共有することで、本学学生が地域福祉推進のための利用者理解の知識と技術を得ることにとどまらず、一般市民等をも巻き込んだ新たな地域福祉社会の構築に貢献することができるとして、大阪府内の各福祉サービス事業者と連携した講演会を開くこととなった。

活動内容

福祉サービスの利用者を講師に招き、同時並行的なミニ講演を実施することで、本学の学生や堺市で活動する福祉専門職および市民の方々が、選択的・主体的に傾聴・聴講する場を提供した。1セッション25分間の講演を計5セッション開催。各講師の方々はそのうち3セッション(計75分間)を担当し、参加者は各セッションの定員内の範囲で、自由に講師を選び教室に足を運んでもらった。

講演会：「福祉の利用者の方々からのお話から考える地域福祉」 会 場：関西大学堺キャンパス
開催日：2019年12月12日(木) 参加者：約90名

活動の成果

- 異なる生活を送っている者同士が出会うことで、社会生活のなかで互いが前提としている考え方が明らかになると同時に、地域福祉の推進に向けた雰囲気創発(emerge)した
- 近い将来に実習あるいは福祉の現場で活動する学生が、会話や場のコントロールの仕方など、ソーシャルワークのスキルを活かす活動を学び実践することができた
- 地域とのネットワーキングにより、教員のみならず学生も地域とのつながりを意識することができた

今後の課題・目標

- より広い意味での地域福祉を推進していくために、さまざまなバックグラウンドをもつ福祉利用者を講演者の候補として検討していくこと
- 本学の教育研究とのリンクをより意識して追求していくこと

教員紹介



■ 人間健康学部 准教授
福田 公教 Kiminori Fukuda

専門は社会福祉学、子ども家庭福祉論。社会的養護の普及・啓発および社会的養護下にある子どもの自立支援のあり方について研究を進めている。妻とともにいくみホーム(養育里親)をつとめている。



■ 人間健康学部 准教授
西川 知享 Tomoyuki Nishikawa

研究領域は、第1に、シカゴ学派社会学を中心とする社会病理学・社会学史研究。第2に、貧困対抗活動の社会的意義についての研究。第3に、育児経験などに根差した家族福祉に関する社会学的研究。



■ 人間健康学部 教授
所めぐみ Megumi Tokoro

地域の生活課題や福祉課題に対して、地域の様々な人々が自分たちの課題として、自分たちでできること・やりたいことを協働で進める地域福祉実践に意図されている。地域福祉実践の研究と地域福祉実践に携わる専門職や地域リーダーらの協働での研修プログラム開発などに取り組んでいる。



■ 人間健康学部 教授
狭間 香代子 Kayoko Hazama

ソーシャルワーク実践論を中心に教育、研究を行っている。具体的なソーシャルワーク支援の場での実践論の応用に関心が高く、研究を進めている。



■ 人間健康学部 教授
山縣 文治 Fumiharu Yamagata

学生時代から子ども家庭福祉に関心をもち、教員になってからもその課題を追っている。